

90周年によせて

顧問 田 中 晋

富山県生物学会は、1925年（大正14年）に創立されて以来90年の節目を迎えました。創立された際の名称は富山博物学会でした。1947年に富山生物学会に名称変更されましたが、富山博物学会として22年を経過したことになります。1951年には富山県教育委員会表彰、1956年には富山県文化賞を受賞しています。富山県博物学会および富山県生物学会の会誌である「富山の生物」は、第1号が1937年（昭和11年）に発行され、現在B5版サイズ、年に1回の頻度で発行されており、2015年3月発行の月号は54号となります。

富山生物学会は、1962年に富山県生物学会へ名称変更し、今日に至っています。初代会長は菊池勘左エ門（以下敬称略）で、進野久五郎、植木忠夫、小林貞作、本多啓七、長井真隆、本多省三、布村昇、等々と郷土の動植物の調査・研究に足跡を残した方々が会長を務めてきました。会員の多くは小中高など学校の教員と一般県民で、大学の教員の参加の少ないのが残念ですが、富山県生物学会のひとつの特徴となっているようにみえます。富山大学に分類学や生態学を専門とする講座のなかったことが要因のひとつなのかもしれません。

それでも富山県生物学会が存続してきたのは、1979年に富山市科学文化センター（現富山市科学博物館）が設立され、生物学会誌を引き受けるなど積極的に関与してくれたことも大きな要因のひとつと思われます。1984年には富山市ファミリーパーク、1993年には富山県中央植物園が開設され、入善町の沢スギ自然館、氷見市に開設された海浜植物園など、長い歴史を有する魚津水族館と併せて、富山県生物学会の存続と発展に欠かせない要素となっています。

海拔標高3千メートルの立山連峰から富山湾の深海まで、標高差4千メートルにおよぶ富山県の立地には、そこにすむ植物や動物に関してまだまだ多くの探求の余地が残されています。

それはフィールドワークをとまなうため、大学などで行われる最先端の研究にはなじまない分野なのかもしれません。富山県生物学会の会員の皆さんには、90年の歴史を受け継ぎ、さらなる発展に寄与することを期待しています。